

鯿の湖

新年のご挨拶

理事長 馬場 智章



謹んで新年のお祝辞を申し上げます。会員の皆さまにはご家族様共々、お元気に令和二年の初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

年頭にあたり昨年を返ってみますと、皆さまのご協力とご支援により、足跡を残せたことにお礼申し上げます。春と秋に合わせて六名の方が入会されたことは、本会の今後にも明るいものを感じると同時に六名の方々の活躍を期待申し上げます。

新しくLIMONガイドが始まったことは、間近となった東京オリンピックに関連して、外国人観光客誘客活動があちこちで進んでいる中、神姫バス(株)様からの問い合わせを受け、半年をかけて両者で協議を重ね、実施に漕ぎ付けました。

昨夏以降、竹生島ガイドをはじめとし一般ガイドが急増し、十一月はそのピークに達しましたが皆さまのご協力により、多くのお客様を笑顔でお迎えしたことは、当会の力そのものと確

NPO法人
長浜観光ボランティア
ガイド協会
〒526-0059
長浜市元浜町14-12
湖北観光情報センター
☎ 0749-65-0370
発行責任者
馬場 智章
編集責任者
宮垣 秀太郎



信じます。

恒例化している清掃等の地域奉仕作業も、参加会員数が増加傾向にあることは喜ばしいことです。これらの実績の上に立った令和二年の活動は、LIMONガイドをはじめ、お客様の要望に沿ったガイドを、誰でも出来る態勢が大切です。協会として研修の在り方を考えると同時に、皆さま一人ひとりの自己研鑽に期待します。

地域の行事に積極的参加し、地域における存在感を高めることにも、ご理解とご協力をお願いいたします。

皆さまのご健康とご活躍をご祈念申し上げます。



副理事長 木村 富久子



新春の御喜びを申し上げます。

令和最初の元旦を迎え、身も心も引き締まる思いです。花屋の店先に並び福寿草の可憐な花に心が和みます。昨年は、会員の皆さまのご協力で計画していた事業を遂行することが出来、

安堵感と、充実感に慕っております。

顧みますと、五月から総務部を軸にして計画された、文化塾(長浜学)何回も検討会を重ねた結果、六名の新規会員の方をお迎えすることが出来ました。次に、湖北ブロック交流研修会の実施でした。これも綿密な計画の下、当協会員が一つになって成し遂げました。特にランチクープの試みは名案でした。

事業部も、楽しかった県外研修の計画や十一月の山のようなガイド依頼の割り付け等、陰に陽に力を発揮していただき頭が下がります。また、大通寺の自主ガイドも当協会の事業の一つでした。

そして神姫バス社依頼の外国人案内も、十二月から動き出しました。これも、当協会にとっては、大きな一歩を踏み出したように思いました。今年七月には、東京オリンピックが開催されます。少しでも長浜に、外国のお客様が来訪していただければと思っています。

このメンバーでの任期はあとわずかです。積み残しのないよう、スムーズに引継ぎが出来るようにしたいと思っています。会員の皆さまには、日々多くのことを学ばせていただきました。

本当にありがとうございました。

皆さまにとって、

本年が素晴らしい一年となりますことをお祈りいたします。



長浜市功績者表彰受賞のお礼

氏原 建士



各位におかれましては、健康やかに新年をお迎えの事とお慶び申し上げます。

昨年の十一月二日に長浜市役所の議場において、長浜市長から功績者田三十二名に対し表彰状が授与されました。

この表彰は四つの部門（自治功績、社会功績、教育・文化、寄贈への感謝状）で功績のあった方々に授与されるもので、観光ボランティアガイドは社会功績の中で「観光ガイド」として観光振興に寄与したといわれています。

振り返ってみますと、平成十五年仕事をリタイヤするの同時に入会して、黒壁近くの小さな話所から始まり、故蒲生会長や富田会長からご指導を頂き無我夢中で突き進んでいた頃が今さらながら懐かしき思い出を過したと感心する頃です。

しかし、一豊・千代博覧会から始まり幾つもの博覧会に参加したこと、平成二十三年には当会をNPO法人化したことなど苦勞もありましたが常に皆さんの温かさに包まれて自身のモチベーションも維持できて今日までやってこれたものと思っています。この事は私の後半生にとって生きがいであり大きな財産になったように感謝をしています次第です。

それだけに今回の受賞は、私個人が頂いたものではなく皆さまと共にあって受賞できたもので、さらにはガイド活動が地域社会づくりの中で認められた存在であることがはっきりの言葉です。

「MONガイドに従事して」

直井 一博

初めての外国人対象の一日ガイドをさせていただきました。私でもできるなら皆さんの自信になるだろうという配慮のおかげでこの光栄をいただきました。本当はとても気が重かったのですが。

※良かったこと

- ①交通トラブルがあつて慌てましたが、ほぼ想定時刻にお客様と合流できました。
②冷たい風雨が吹きつける天候で、湖畔に行くのはやめようと思ったほどでしたが、お客様が友好的で、「ノープロブレム」と楽しんでくれました。

- ③別れる際にガイドをとても喜んでくれました。下手でも懸命にやっていると思ってもらえたと思えました。



※反省点

- ①お客様のことを名前以外に、何に興味があるかなどほとんど聞き出せませんでした。英語力不足ですがやむを得ずです。
②曳山博物館の見学は、あまり細かい説明は要らないと思いましたが、準備不足だったと思います。見送り幕など、独特のものの説明がうまくできませんでした。ヒヤオも、考えているうちに場面が変わります。
※英語は通じたか？

- ①相手の香港の夫婦も英語は得意ではないらしいので、ゆっくり話してくれたので、半分聴くくらいは通じたかなと思います。
※ボケトークは役に立ったか？

- ①単語を探し出すのには便利。相手の奥さんはスラブを使って、中国文を日本語にして見せてくれました。ボケトークでもできますが、便利に使うには慣れが必要です。
※補助の人は必要か？

- ①しばらくの間は必要だと思えます。今回は馬場さんでしたが、トラブル対応が落ち着いてできました。そのほかにちょっとしたこと相談できるという安心感があるので、落ち着いて案内できたと思います。
※全体の感想
ガイドの時間が長く、緊張が続いたので疲れました。けれど、拙いガイドをあれほど喜んでもらえたので、一仕事を終えたという充実感が上回っています。相手にもよるでしょうが、英語が苦手だと思っている人にもぜひ勧めたいです。いい体験ができます。この積み重ねが新しい世界を開いてゆくと感じます。

会員の随筆

石田三成公と石田町

(地元で言い伝えられているお話)

草野久子

近年は石田公館への来館者が増加し、三成公の事績のパネルや写真展示を熱心に見学している方が多く見られます。

三成公の祖先は相模国(神奈川県)に居住して三浦氏に従属し、北近江の守護大名であった京極氏が領していた猪鼻城(米原市梓河内)を守護するようになり、室町時代の初めに移住してこられたとされています。

石田家は現在の会館付近に約四千三百坪の広さを有し、屋敷の周囲を土塁と堀に囲まれていたとされます。小字名を、「治部」と呼びその一部が堀端として残っています。ここは以前は「こいで」と呼ばれていましたが、三成公が治部少輔となり、あまりにも有名になられたので小字名が「治部」と呼ばれるようになったそうです。その他にも会館付近には、「的場」、「番場」、「御畑」と言った地名が残っています。また、遺跡としては、先書の治部池、八幡神社、供養塔、産湯の井戸等が残っています。

関ヶ原の合戦後、石田村では三成公がなくなられたことを知ったお年寄りのたちが悲しみ、近くの地藏様に手を合わせ、ひそかに三成公の冥福を祈っておられたそうです。当時のお地藏様

は赤坂地藏と呼ばれ、現在も町民がお守りしております。

しかしながら、徳川方の残党狩りが行われるなか、石田一族の墓も破壊され、毎年、宗門改めの折に「石田残党これなく候」と彦根藩に誓約を強いられるなど、当時の村人たちは恐怖の中に肩身の狭い思いで生きてこられたと思います。

江戸時代、三成公は奸臣な人、冷血な人など評判が悪く悪人のイメージが強かったのですが、徳川光圀公の異論もあり、三成公の実像が明治半ばを過ぎて明らかにされ、世間の認識も改められました。昭和十六年、生誕地には当時の県知事、近藤謙太郎氏のお声かけで、「石田三成公事績顕彰会」が発足し、大きな顕彰碑も建立されました。以降供養も続けられています。

二千年からは顕彰会の法要(自治会も加わり、三成祭として毎年十一月第一日曜日に盛大に開催されています。昨年も、石田家の末裔は十二名ほど参列された伺っております。

このようにして、三成公は関ヶ原合戦から四百年余りたった今は、郷土の英傑としてたたえられています。



県外研修 いざ!!家康公

生誕の地・岡崎へ



事業部長

永田太一

♪見よや徳川家康のおこりし土地の岡崎をやはぎの橋に残れるは藤吉郎の物語♪

鉄道唱歌に歌われているように、秀吉公とも関連したり、田中吉政公が城下町を築いたり長浜にも縁のある岡崎を訪ねました。びっくり! からくり時計から登場。

『家康公(人形)が能を舞う。』幼稚園児や小学生とも出会う市民の憩いの場所。岡崎城公園。八丁味噌の香りが漂い、大きな杉桶がずらりと並び味噌蔵。桶の上の重石の積み重ねは職人の手作業。お見事!

家康公が今川軍に敗れ、自害を果たそうとしたが制されて復活。歴史的な寺!大樹寺。各見学地では、説明を聞きながら知識を深めるとともに、各ガイドさんの話しぶり等も大変参考になりました。

好天にも恵まれ楽しいバスの旅。皆さんの協力で雰囲気も良く、会員の親睦も深まりました。

ありがとうございました。



新人会員の自己紹介

田中 信之



はじめまして。田中 信之です。令和元年十一月から、皆さんの仲間に入れて頂いた、後期高齢者です。住まいは、長浜市大浜町、風光明媚なびわ湖湖畔です。

生まれは、関東の茨城県土浦市です。

入会の動機は、歴史ロマンが大好き人間で、四十のサラリーマン生活を終え、滋賀県の老人大学（レイカディア大学）で北近江の文化にふれたい、このロマン心が増幅し、何か、この地域に貢献しながら、もっとロマンを探求したいと思ひもあり入会しました。

これからの抱負は、北近江・長浜の魅力を生かすために、ボランティアを通して、訪れるお客様に喜んでいただける様に伝えていきたい。また、楽しい仲間とワイワイと活動していきたいと思ひます。趣味は、城郭探訪、写真、茶道、カラオケ等諸先輩方、よろしくご指導をお願いいたします。

土田 旬子



この夏に何年振りかで竹生島を訪れました。外国からのお客様を案内しての観光でしたが、ボランティアガイドの方が同行してくださいました。その方の知識の豊富さと親切な案内に、皆はとても喜びました。私も長浜の魅力を伝えてくださる姿に感動しました。後日、ボランティアガイドになりました。後日、ボランティアガイドになりました。後日、ボランティアガイドになりました。

研修では、いかに自分が地元のことを知らないかを痛感させられました。今後は精進して、長浜の良いおもてなし役になりたいと思っております。先輩の方々のご指導のほど、どうかよろしくお願ひします。

「結い」のある協会

中川 明

協会のガイド活動が、「楽しむ・喜びを感じる・自信を持つ」ことができるように創立時の心に還ることを目標として、具体化を図ってきたこの二年間である。

そこで、月に一度程「寄り廻り」を作ろうと、四居家で始めたのが、昨年の九月。初回は、ミニ・ガイドや掲示板作りや情報交換をした。その後、橋本氏が既刊した凧の湖の「拾い読み」を毎月発行。十二月からは北呉服町の今村家や伊部町の羽淵商店、大手町の天香さんの生家見学等を行った。また、二月には、茶会を行った。この秋には、さざなみ古書店主の「長浜まち歩き」話を聞いた。そして、今年の締めくくりに、有名な仏師中川大幹氏の完成近い京都の壬生寺縄目地藏菩薩像の見学を実施した。残念なことにもその間幾つか計画して、実現出来ていないこともあるが、これから、月に一回は

- 皆が寄って 和気あいあいに
- お客さんに 声をかけ ミニ・ガイド
- 小さな「学び」の場
- 地域の方々との交流をしたり
- こんなことをしたい（会員の意見を生かす）

寄りましょう
語りましょう

観光情報

☆竹生島

改修工事は令和元年十二月完了（予定）その後、点検作業等があるので詳細な日程は不明だが、三月末頃には竹生島側に引き渡し予定（県文化財保護課談）

落慶法要は五月頃を予定 具体的な日程は未定（竹生島・秋野氏談）

☆曳山博物館

展示曳山

鳳凰山・高砂山（一月十二日迄）
月宮殿・狸丸丸（一月十三日〜）

修理トック

寿山

今後のスケジュール

- 一月 八日（水） 慶雲館掃除
- 〃 〃 新年会
- 一月 十日（金） 長浜盆梅展開幕
- 一月 十七日（金） 運営委員会
- 一月 三十一日（金） 曳山博物館
- 三大山車祭開幕